

# 地域再生計画

## 1 地域再生計画の申請主体の名称

足利市

## 2 地域再生計画の名称

日本最古の学校「足利学校」のあるまちの生涯学習・市民活動による地域再生計画

## 3 地域再生の取組を進めようとする期間

認定を受けた日から約5年間

## 4 地域再生計画の意義及び目標

地方分権、規制緩和という社会経済情勢と相俟って、少子高齢化、情報化、環境問題といった多様化・高度化する様々な課題など地方自治体を取り巻く環境は大きく変化しています。

従来、社会的課題や住民のニーズに対応するのは、行政の役目とすることが一般的な認識でしたが、多様化・高度化する諸課題については、行政のみできめ細かく対応することは困難になっており、また、諸課題の中には、公平性を原則として均一的なサービス提供を基本とする行政だけでは対応が困難なものも多く見受けられます。今後のまちづくりには、諸課題を自らの問題と捉え、自主的に、柔軟に、機敏に対応することができる住民の参画が必要不可欠なものになってきています。

さらに、地方分権時代において地域間競争が激化する中において、また、渡良瀬川を挟んで一衣帯水の関係にある両毛五市（栃木県足利市、佐野市、群馬県桐生市、太田市、館林市）が切磋琢磨しあい発展してきた地域にあって、本市には、自らの権限と責任により、地域固有の資源等を有効に活用し将来を見据えた、足利らしい特色あるまちづくりを自ら構築し実践することが期待されています。このような意味からも、今後一層、本市が地域の課題や実情を十分に把握した住民とともに、創意工夫のもと知恵を出し合って施策を構築し実践することが重要となってきています。

本市では、日本最古の学校といわれる足利学校を固有のアイデンティティと捉え、足利学校が連綿と築いてきた「進取の精神」と「自学自習」の精神を受

け継ぎ、昭和56年には全国に先駆けて、生涯学習の立場に立った市民参加による「足利市の教育目標」を策定し、生涯学習社会の実現を目指した取組みを推進してきました。また、生涯学習活動等から発展した市民活動に対しても、足利市地域づくり活動支援補助金の交付や、足利市民活動センターをはじめとして、既存公共施設等を改修したサポート拠点及び情報の受発信拠点を提供するなど豊かな地域づくりを目指した取組みを積極的に推進してきました。

さらに、市民と行政の協働のまちづくりを推進するため、NPOやボランティア等の市民活動の実践者や有識者、公募市民等から構成する「協働のまちづくり推進会議」を組織し、協働のあり方やそのルールづくり、市民・職員の意識啓発、活動団体間のネットワーク、足利市民活動センターの充実等について議論いただいているところです。

しかし一方では、少子高齢化、核家族化の進行や人口移動等に伴って、地域が予ねて保持してきたコミュニティ機能が低下し、生活や文化を育んできた地域社会の連帯感が薄れている現状にあります。

そこで、生涯学習や市民活動を通じた市民と行政の協働のまちづくりの一層の推進を図るために、地域社会と連携して足利工業大学や上智大学などの高等教育機関のもつ人的、知的、物的資源等を活用した生涯学習方策である「行動する市民を育む生涯学習支援プログラム」を構築し、市民一人ひとりが自己の実現に向け意欲的に学べる環境を整備します。さらに、市民一人ひとりが主体的に地域固有の歴史や文化、地域社会の課題を学ぶことを通して郷土愛を形成することにより、学んだ成果を地域社会に還元したい、地域社会の課題解決に向け自ら行動したいという市民活動の輪が拡大することが期待できます。

また、本市では、社会経済情勢の変遷や施設の統廃合等により遊休化した公共施設等については、これまでも共生型の地域社会を実現するための資源として捉えて、積極的にその利活用に努めてきたところですが、今後とも、これらの施設については、新たに芽生えはじめた生涯学習や市民活動の輪を大樹に育成するため、自ら行動する市民のサポート拠点等として、改修を施しながら積極的に利活用していきたいと考えています。具体的には、中央地区の通学区域の再編成に伴い閉校になった学校跡地において、生涯学習のための環境づくりを総合的に推進するための「生涯学習センター」や、市民が自由で自主的な活動を展開する場所と位置づける「(仮称)セントラル・コミュニティプラザ」としての改修整備の検討を進めているところです。さらに、北部の学校跡地についても、「手作り体験工房」等としての活用を検討しているところです。

今後、これらの取組みを体系的かつ計画的に展開することにより、地域社会の課題等に関して行政と共通認識を持ち、互いにパートナーとして役割分担のもと活動を展開する市民を育成します。さらに、地域のノウハウや資源等を活用することにより、これまで以上に効率的かつ効果的な行政サービスの提供が期待できるものについては、積極的に市民との協働を推進するとともに、地域住民が地域の経営資源を活用して、地域の課題解消や地域需要を満たすために行うコミュニティビジネス等についても支援を行うことにより、「足利らしさ」を最大限に発揮した地域の再生や活性化を目指します。

## 5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

昨今、地域コミュニティが衰退し、地域社会の連帯感が薄れてきていることが懸念されている状況にあって、本市の目指すまちづくりにおいては、地域コミュニティの再生が必要であると認識しているところです。

このような中で、地域社会を支える市民と足利工業大学や上智大学などの高等教育機関との連携のもと、生涯学習方策である「行動する市民を育む生涯学習支援プログラム」を構築及び実践し、市民一人ひとりが自己実現に向け意欲的に学べる環境を整備することにより、地域社会の課題を学び合い、課題解決に向け自ら行動する市民活動の拡大が期待できます。同時に、市民が地域の歴史や文化等を学ぶことで郷土を愛する心が生まれ、社会連帯感の再構築への足掛りとなることはもとより、専門的な知識技能を修得した市民が、生涯学習ボランティアや生涯学習指導者として地域への知恵・知識の継承が進むことも期待されるところです。

また、社会経済情勢の変遷や施設の統廃合等により遊休化した公共施設等については、改修等を施し、自ら活動する市民のサポート拠点等として積極的な利活用を図っていくことで、これからの生涯学習や市民活動が幅広く発展するための起爆剤となるものと確信をしています。

本市には、現在、NPO法人21団体、ボランティア協会登録59団体、足利市民活動センター登録72団体等のほか、生涯学習関係の団体など幅広く活動をしている市民活動団体も相当数あります。今後、地域社会の課題等について、行政と共通の認識を持つ自立した市民を計画的に育成することにより、生涯学習の公民館登録355団体のさらなる増加等による地域コミュニティの活性化が図られます。さらに、地域のノウハウや資源等を活用することにより、これまで以上に効率的かつ効果的な行政サービスの提供が期待できるものに

については、積極的に市民との協働を推進することで、地域社会の課題を自らの問題として捉え、自ら解決に向け行動する市民が増加することにより、既存のNPO法人等が自らのノウハウを活用して、行政と協働で地域社会の課題を解決しようという機運の高まりや、新たに行政とともに地域社会の課題解決に取り組むNPO法人等が設立されることにより、地域雇用の創出にも貢献できるものです。

また、地域住民が地域の経営資源を活用して行うコミュニティビジネス等についても、地域社会における人間関係等の中で達成される精神的に豊かな生活を目指した、相互に安心、安全、楽しさといった価値を提供し合う仕組みづくりにつながるものであり、「足利らしさ」つまり、本市が連綿と受け継いできた固有の歴史、文化、自然環境、観光資源、産業、人材等を地域の経営資源とし活用する中で、この事業化が住民によってなされることにより、生きがいや働きがい芽生え、地域への責任感や当事者意識が醸成される効果や新たな地域雇用の創出も期待できます。

## 6 講じようとする支援措置の番号及び名称

10402 公共施設を転用する事業へのリニューアル債の措置

## 7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業 関連事業

### (1) 行動する市民を育む生涯学習支援プログラムの構築及び実践

#### 事業の目的

本市は、日本最古の学校といわれる足利学校があるまちであり、市民は、足利学校を誇りに思うとともに、足利学校が連綿と築いてきた「自学自習」の精神を受け継ぎ、足利学校を心の拠り所としてきました。

こうしたなか、昭和56年に全国に先駆けて、生涯学習の立場に立った市民参加による「足利市の教育目標」を定め、その具現化を生涯学習社会の実現と位置づけ、豊かな地域づくりを目指して推進してきました。

しかし一方では、少子高齢化、核家族化の進行や人口移動等に伴って、地域が予ねて保持してきたコミュニティ機能が低下し、生活や文化を育んできた地域社会の連帯感が薄れている現状にあります。

そこで、大学等の高等教育機関と連携して「行動する市民を育む生涯学習支援プログラム」を構築及び実践することにより、市民一人ひとりが、

主体的に地域社会の課題を考え、解決に向け何が出来るかを自らに問いかけ、さらに具体的な行動に結びつける結果、市民一人ひとりが、地域社会に貢献しながら活力あるまちづくりに取り組むことを目指します。

なお、本事業については、足利工業大学など市内の高等教育機関はもとより、1549年、日本にキリスト教を伝えたイエズス会師フランシスコ・ザビエルにより、足利学校が「坂東の大学」としてヨーロッパに紹介された縁から、同会が創立した上智大学及び市民と協働して実施するものであり、平成17年度以降、文部科学省所管の「生涯学習まちづくりモデル支援事業」等の活用も視野に入れたものです。

### 事業の内容

#### 1) 地域課題の抽出と対応する公開講座等の企画・検討

大学及び市民と意見交換する中で真のニーズを見出し、課題に対応する公開講座を企画します。誰もが受講してみたいと感じる講座づくりに力を注ぎます。柱となる視点は以下のとおりです。

- ・歴史や文化の学習を通じてコミュニティ意識を涵養するもの
- ・少子高齢社会での生き方を考えるもの
- ・地域活性化（経済、観光、環境等）に関わるもの
- ・大学生と児童・生徒や市民との交流を促進するもの

#### 2) 公開講座部門の取組

座学的にではなく、できる限りグル－プワ－クや演習形式で実施し、また、公民館など身近な場所で気軽に受講できるように配慮します。

#### 3) 大学生と市民等との交流事業部門の取組

学習、スポーツ分野において大学生による交流企画や、上智大学で開催される国際プログラムへの招待など双方向性を重視します。

#### 4) デジタル情報活用部門の取組

地元ケーブルテレビの協力を得て、テレビ放映や繰返学習を可能とし、併せてインターネットを通じて取組み内容を紹介します。

#### 5) 事業全体にかかる点検評価の取組

アンケート調査を通じて企画毎にリアクションを収集し、事業全体の最適化を図ります。

### 事業の効果

地域社会と連携して大学等の高等教育機関のもつ人的、知的、物的資源

を活用した公開講座の開催や、市民と大学生の交流活動の実践により、市民一人ひとりが自己の実現に向け意欲的に学べる環境を整え、地域固有の歴史や文化、地域の課題を学ぶことを通して郷土愛を形成し、学んだ成果を地域社会に還元したいという市民活動の輪の拡大が期待できます。

また、講座内容や市民と大学生の交流状況はデジタル情報化し、ケーブルテレビやホームページ等を通じ幅広く提供します。本市だけにとどまらず活動の輪を広げることにより、行政区域を越えた市民レベルの生涯学習活動が、新たな都市間連携方策として構築されることが期待できます。

さらに、このような活動を継続的かつ積極的に展開することにより、今後開設を予定している生涯学習センターや（仮称）セントラル・コミュニティプラザが、足利の未来を拓く人材の育成や連帯感あふれる地域社会づくりのためのサポート拠点、情報の受発信拠点などとして十分に機能することが期待できます。

## (2) 足利市地域づくり活動支援補助金

市民と行政のパートナーシップにより、市民の創意を生かした個性的で魅力的なまちづくりを推進するため、本市の行政課題の解決やまちの活性化に向けて、市民自らが企画し、自主的に取り組む地域づくり活動事業に対して、平成13年度から補助金を交付しています。

補助の対象となる事業は、  
中心市街地活性化のためのソフト事業  
地場産品、名物などの活用・開発による地域おこし事業  
地域リーダー、地場産業後継者など地域づくりの人材育成事業  
地域観光活性化事業  
伝統文化の継承と活用による地域おこし事業  
等となっています。

## (3) 協働のまちづくり推進会議

市民による社会貢献活動を促進し、市民と行政の協働のまちづくりを推進するため、平成15年度に、NPOやボランティア等の市民活動の実践者や有識者、公募市民等から構成する「協働のまちづくり推進会議」を組織しました。

現在、市民と行政の協働のあり方やそのルールづくり、市民・職員の意識啓発、活動団体間のネットワーク、足利市民活動センターの充実等につ

いて議論いただいているところです。今後、平成16年度に提出予定の報告書を尊重しながら、市民と行政の協働のまちづくりの推進を目指します。

#### (4) 足利市民活動センター

旧安足健康福祉センター跡地を栃木県から取得し内部改修したものであり、NPOやボランティア等の市民活動を支援するための活動拠点として整備するとともに、総合福祉センターの機能を一部移転することによる地域福祉の充実を目指した施設です。

同センターは、登録者は原則無料で施設を利用でき、平成16年3月末で団体63件、個人9件の登録がなされおり、これまで延べ約1万2千人が活用しています。

#### (5) 足利まちなか遊学館

銀行の支店再編に伴い廃店なった跡地を、足利学校の玄関口という立地条件を活かした中心市街地の複合拠点と位置づけ、回遊ルートを構築するとともに、観光客に対するサービス提供、市民が集い・学び合い・交流を深めるための施設として整備したものです。

施設内には、市民や観光客等に配慮したコミュニティゾーンのほか、繊維関係の資料展示、地域コミュニティ活動に配慮した大小の会議室等が設置してあります。

#### (6) 足利インキュベーションオフィス「A-BOX」

創業や新分野での事業をはじめめる起業家に対して、オフィスを提供するとともに、経営アドバイスなどを含めた集中的な支援を行いながら、スムーズな自立を応援するため、既存施設の一部を改修し開設したものです。

さらに、本市の各種産業振興のための補助制度や産業支援に関する各種支援団体に構成されるとちぎベンチャーサポートプラネット21による支援が受けられる仕組みを整備しています。

#### (7) 生き街工房

地元商業会と足利工業大学が連携を図り、学生たちによるまちづくりの提案や情報発信の拠点として、空き店舗を活用して整備しました。

同施設では、学生が自ら企画・運営に携わり、まちづくり研究室、パソコンサポート、まちづくりサロン、地元芸術家支援コーナー等の取組みが実践されています。

#### (8) 茂右衛門蔵

地元の自治会やまちづくり団体からの要望に応じて、取壊しが予定されていた蔵を本市が取得し改修したことにより、石畳をはじめとした歴史的な雰囲気に対応しい蔵として蘇ったものです。

地元では、足利織物の礎をつくった起業家である「小佐野茂右衛門」に因んで「茂右衛門蔵」と命名し、さらに、管理運営や保存活用を目的とした「茂右衛門蔵の会」を組織し、この蔵を風情ある街並景観に活かしていくとともに、市民ギャラリーとして本市ゆかりの作家の作品等の展示場として活用しています。

#### (9) ヌーベル・スクエア

音楽と生活文化をテーマとして、多様な音楽や生活文化の楽しみ方を地域の人達や友人とともに「学び」、「語らい」、「発見」できる「情報発見スペース」として、空き店舗を活用して整備しました。

同施設では、有志により組織された「ニューベル・スクエア足利」により、音楽、工芸、手芸等の身近なカルチャー講座が、質の高い講師と自由に選べるカリキュラムで提供されており、さらに今後は、パソコンやIT関連、その他の講座や体験イベント等も企画される予定です。

#### (10) 障害者ふれあいサロン事業

障害者施策の基本理念であるノーマライゼーションと社会参加を具現化することを目的として、中心市街地の空き店舗を利活用して障害者ふれあいサロン事業を実施します。

具体的には、在宅障害者の就労的社会生活訓練を目的とした喫茶・販売が可能な店舗の設置及び運営を起点として、多様な人々との交流によるノーマライゼーションの推進、障害者施設で作成した製品の展示販売を踏まえて、最終的には空き店舗を利活用することによる中心市街地の活性化につなげていきたいと考えています。

### 8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項 な し

## 別紙

### 1 支援措置の番号及び名称

10402 公共施設を転用する事業へのリニューアル債の措置

### 2 当該支援措置を受けようとする者

足利市

### 3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

#### (1) 事業の背景及び目的

本市では、少子化の進展に伴い児童・生徒が著しく減少する実情を勘案し、子ども達の学習活動やその成長過程において係わることが望ましい集団や人数等に配慮した学校の規模を想定し、加えて子ども達の生活圏や発達段階・通学環境を考慮した通学区域の再編成を進めてきました。

また、中央地区の7校のうち通学区域の再編成に伴い閉校となった3箇所の学校跡地（旧相生小学校、旧東小学校及び旧西小学校）については、跡地活用を検討するため、市議会、地元関係団体及び学識経験者から構成する組織を新たに設置し、この検討組織により、全市的かつ長期的な視野に立った調査検討が実施されました。

さらに、本市では、検討組織から提出を受けた「学校跡地活用検討結果報告書」を尊重し策定した「学校跡地活用基本方針」を基本として、それぞれの土地及び施設については、共生型の地域社会を実現するための資源として有効活用するため、導入機能など施設の性格づけ、活用内容及び管理・運営体制等からなる個別施設ごとの「活用基本計画」を策定し、有効活用の具現化を図るべく推進しているところです。

また、閉校になった北部の旧松田小学校についても、「手作り体験工房」等としての活用を検討しているところです。

#### (2) 有効活用を図る施設

##### 旧相生小学校

足利学校建学の精神である「進取の精神」と「自学自習」の精神を受け継ぎ、市民一人ひとりの自発的な生涯学習を奨励援助し、より充実した人生が送れることができるように、生涯学習のための環境づくりを総合的に

推進するため「生涯学習センター」として整備します。主な取組みは以下のとおりです。

- 1)各生涯学習関係施設等との連絡・調整及び生涯学習事業の企画立案並びにその実施を行います。
- 2)市民へ生涯学習情報を提供します。
- 3)市民の生涯学習等の相談に対応します。
- 4)市民の専門的な学習や調査・研究を支援します。
- 5)市民の自主的な学習活動を支援します。
- 6)市民の地域活動を支援します。

なお、旧相生小学校の校舎については、文部省所管の公立学校施設整備費国庫負担金を充当し、昭和50年度及び51年度に建築したもので、建築後10年を経過した施設です。さらに、平成9年11月20日付け教育助成局長通知において示された「報告事項一覧」中の2-(1)に位置づけられた社会教育施設への転用であることから、補助金の返還は伴わないものです。

#### 【改修整備のスケジュール】

- 平成16年度 実施設計の実施
- 平成17年度 改修工事の実施
- 平成18年度 オープン

旧白鷗大学足利中学校（旧東小学校と相互譲渡により取得予定）

閉校となった旧東小学校の土地及び施設については、以下の理由により、白鷗大学足利中学校の土地及び施設と相互譲渡による交換を行うこととしました。

- 1)白鷗大学足利中学校が立地する足利学校周辺地域において、一体的な利活用を図ることができること
- 2)旧東小学校が再び「学校」として有効活用を図ることができること
- 3)白鷗大学足利高等学校及び足利中学校が一体的に立地することにより、JR足利駅南口周辺が市内外から生徒が集まる学園地域として形成し、若者による賑わいの創出につながることを期待できること
- 4)学校法人白鷗大学から、土地及び施設の交換について陳情書が提出されていること

さらに、相互譲渡により取得する白鷗大学足利中学校については、近隣

に整備する生涯学習センターとの機能分担を図り、市民が自由で自主的な活動を展開する「場所」として位置づけ、市民が様々な活動を実践する「(仮称)セントラル・コミュニティプラザ」として整備します。主な取組みは以下のとおりです。

- 1) 団体登録制により、市内の自主的なコミュニティ活動を実践する団体に貸し出します。
- 2) これまで様々な施設で開催してきた足利市国際交流協会の各種事業の会場を同プラザに集中することで、その活動の拠点とします。
- 3) 文部科学省の推奨を受けて進められている総合型地域スポーツクラブ「スポーツコミュニティとうこう」等の活動拠点とするほか、地区体育館としての利用需要にも対応します。

なお、白鷗大学足利中学校との相互譲渡により譲渡を行ったことにより生じた旧東小学校の補助金の返還については、平成15年度に事務手続きを完了しています。

#### 【改修整備のスケジュール】

平成16年度 相互譲渡により取得、実施設計及び改修工事の実施  
平成17年度 オープン

#### 【参 考】

今後、以下の公共施設についても、改修し利活用を検討しています。

##### 旧松田小学校

現在、北部リゾート開発計画との連携を視野に入れて、工芸、陶芸、絵画などの「手作り体験工房」等として活用するため、具体的な方策を検討しているところです。

##### 旧西小学校

現在、活用基本計画を策定している状況にはありませんが、今後、生涯学習センターや(仮称)セントラル・コミュニティプラザと適切な機能分担を図り、全市的かつ長期的な視野に立った活用方策等の検討を進めていく予定です。